

トコヤさんが来たよ

福 明子



岡本 順・絵

森は、いま金色きんいろの季節です。ふりつもった落ち葉をパキパキふんで、みんなの知らないニュースを運ぶのは、ウサギの仕事です。

「森にトコヤさんが来たよ。白い小さなお店ができたんだ。ほら、三本杉のところさ」

ウサギは森じゅうに知らせてまわりました。

「トコヤさんてなあに？」

リスの子は父さんにききました。するとリスの父さんは、子どもに『人間』の話をしました。人間は、ふしぎな生きもので、体には毛がないのに頭の上だけに「かみの毛」というもじゃもじゃの毛がはえていて、そのうえ、その毛がよくのびるらしいのです。

「だからな、人間は、ときどきトコヤさんにたのんでチョコキッキと切ってもらおうのさ」

「ふーん、でも……」

リスの子は、首をかしげました。

「トコヤさんは森で何をするのかなあ」

「さあなあ……人間のほかに、トコヤさんに行く動物なんているのかなあ」

父さんも首をかしげました。そして、子どもの頭をなぜながらこう言ったのです。

「よし、とにかく三本杉まで行ってみよう」